

インタビュー

株Keigan
代表取締役

徳田 貴司氏

(株Keigan(京都府精華町)は、2016年設立のスタートアップ・ベンチャー企業。「Onk and Easy Robot for Everyone」を理念に据え、モーターのモジュールコンロール技術から、電気・機械設計、ソフトウェア開発、量産化技術などをすべて手がけ、人の役に立つロボットを簡単かつ瞬時に作る事ができる仕組みを多くの人々に提供し、社会に貢献することを目指している。代表取締役の徳田貴司氏に話を伺った。



Motorに動きの役割を割り当て、簡単にロボット化することなども可能で、エンジニア、研究者、デザイナー、メーカーの開発ツールとして、

レースにも対応できるハイブリッド型であることが特徴だ。人がいる場所では自律走行で移動し、コンベアへの横づけなど停止精度が求められる場所ではライントレースで走行することも可能で、幅広い用途で活用できる。また、ロボットの専門家ではな

Iも公開しており、ソフトウェア開発も自由に行える。新たなロボティクス製品を開発している方に移動体プラットフォームとしてKeiganALIを提供することも可能だ。現在、大手自動車メーカーをはじめとした製造現場を中心に、物流施設や飲食店などでも採用されており、これまでに累計約150万台が導入されている。エレクトロ

「KeiganFleet」だ。複数台のKeiganALIがマップおよび経路情報を共有し、衝突を防ぎながら最適なルートで走行でき、機体の位置、バッテリー残量、ステータスなどを二元管理できる。また、台車の自動着脱が可能な台車連結モジュールも開発し、「出発地にて台車に降り込み台車と連結する」「目的地まで台車を運ぶ」

かかった際にも柔軟な制御が可能である。なお、住友重機械工業はKeiganALIの生産や1次販売も行っていただいております。開発、販売、製造を総合的にサポートいただいております。

「目的地まで台車を運ぶ」様々なセンサーを活用しており、センシング製品については新しい技術を注視している。バッテリーや制御関連についても

ともに、KeiganFleetを用い、複数台で活用・運用していただけるお客様を増やしていきたい。4月27・28日に開催される「Material Fair Kyoto 2024」(会場：けいはんなオープンイノベーションセンター)などに出展する予定であり、こうした場を通じて当社の技術をぜひ感じていただきたいと思っております。

自律移動ロボットの採用が拡大

独自のモーターモジュールに強み

ター、コントローラー、無線モジュール、センサーなどをすべて一体化し、ラビッドプロトタイプなどが簡単に作れる。複数のKeigan

本格的なロボット開発や動くものづくりの実現に貢献する。

——ロボット製品も展開されている。

KeiganMOTORの応用製品として、自律移動ロボット「KeiganALI」

現場担当者でもマップング(地図の作成)が簡単にできる仕様にしており、慣れているユーザーであれば地図の作成からルートの設定まで10分程度で行える。

——そのほかの特徴や導入実績について。

KeiganALIの機能を拡大されていますね。

——貴社の事業について。

KeiganALIは、450×450×300mmを搬重は30kg牽引60kgトルクアップ改造で60kg可搬も可能)で、自律走行機能に加え、ライント

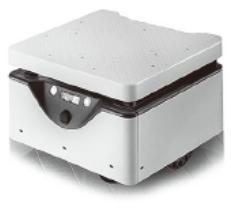
——そのほかの特徴や導入実績について。

KeiganALIの機能を拡大されていますね。

KeiganALIの機能を拡大されていますね。

KeiganALIの機能を拡大されていますね。

KeiganALIの機能を拡大されていますね。



自律移動ロボット「KeiganALI」

KeiganALIの機能を拡大されていますね。

KeiganALIの機能を拡大されていますね。

KeiganALIの機能を拡大されていますね。

KeiganALIの機能を拡大されていますね。

KeiganALIの機能を拡大されていますね。

KeiganALIの機能を拡大されていますね。

聞き手・副編集長 浮島哲志